

経済学研究科 (修士・博士) の論文指導について

石原章史*

教員の専門分野について

- 担当教員の専門は組織、契約理論、産業、政治の経済分析などです(ウェブサイト¹⁾も参照してください)。基本的にはミクロ経済学、ゲーム理論等を用いたフォーマルモデルによる理論分析に興味がある人を受け入れます。
- 上記分野の実証研究に興味のある人は、原則として実証分析を専門にする別の教員を指導教員にすることを勧めますが、非公式な相談・指導は歓迎します。

前提(修士向け)

- 修士1年目に経済学コースのしかるべき要件(ミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学など)を満たしてください。なお、一般論として、博士課程進学をするしないを問わず、公共政策ではなく経済学研究科の対応する授業を履修することを勧めます。(多数の学生から指導希望があった場合、経済学研究科の授業を履修した人を優先する可能性があります。)
- ガイダンスの期間(4月入学の場合は例年12月、10月入学の場合は例年7月)に必ずe-mailでコンタクトを取り、ガイダンスを受けてください。

指導について(修士・博士共通)

- 修士論文の研究テーマをこちらから与えることはありません。**必ず自分で興味のあるテーマを探してください。**探してきたテーマをどう形にするかを手伝うのが指導教員の役割となります。
- 原則として、平均して月に1度のペースで個別面談により論文指導を行います。複数の学生がいる場合、共同で報告会を行う場合もあります。
- E-mailで連絡をしますので、**必ず定期的に確認してください。**

*東京大学社会科学研究所 E-mail: akishihara@iss.u-tokyo.ac.jp

¹⁾<https://akishihara.github.io>

- 大学関連の業務 (TA・RA・非常勤講師など) や進路先 (就職、進学など) が決まったら必ず連絡してください。また、休学や退学など論文指導を中断する事態になった場合も必ず連絡してください。
- 学会への報告や学術雑誌への投稿などを考えている場合は必ず一度は相談してください。
- (他の大学も含め) 他の教員との相談・議論を推奨します。指導教員の変更についての相談・希望も全く問題ありません。
- 経済学研究科で開催されている Microeconomic Theory Workshop には必ず定期的に参加してください。

指導について (博士課程向け追記)

- 私の指導の下で博士課程への進学を希望する場合は、半年前 (4月進学予定者は前年の10月ごろ、10月進学予定者はその前の4月) までには必ず一度相談に来てください。
- 経済学研究科の Microeconomic Theory Workshop 以外にも、他の研究会への参加を要求する場合があります。興味があれば他の学内・学外の研究会への参加も推奨します。

最終更新: 2024年4月4日